

に書るな

(八雲御抄三上路) 舟ちみち二な 山家苦かけ野關浦濱浪雲とを磯
通 通 夢 別 ふる 中源氏 下 上 しは 細川源氏に川邊の中東こしつく
し萬 山と大和にもつくし有はりま信濃近江伊勢ならならのおほぢなには
足萬 の萬 海つち宮宮こ後宮け萬 こせ御こし越前越中越後とを貫之若狭
丹波 播磨 紀伊 伊賀 出雲 あへの市萬 雲るぢ陸奥をき由也へりひなのながぢ萬
かげふむ道柳など るでの中道 ふるの中道 ふたみち萬 おほの萬天さほ萬 とよは
つせぢ萬 たつた きそち ふたみ三河 ふすまとつべきての山 紅のすそひくみち萬
をのほそみちいはのかげみち

(倭訓栞前編三十一) みちのくち道口也凡そ國に前と稱するは皆かく訓せり、皇都に近きを口といふ也、東鑑に伊勢國道前郡とあるも是也、道は七道をいふめり、

(古事記孝靈) 大吉備津日子命與若建吉備津日子命二柱相副而於針間氷河之前居忌金而針間爲道口。以言向和吉備國也。故此大吉備津日子命者吉備上道也。次若日子建吉備津日子命者吉備下道也。

(古事記傳二十二) 道口とは其入初る處を口と云、奥方を尻と云、人體の口と同じ。其に前後字を用ひて、北陸道にては古之乃三知乃久知は越前、古之乃三知乃奈加は越中、古之乃美知乃之利は越後と云、山陽道にては岐比乃美知乃久知は備前、吉備乃美知乃奈加は備中、吉備乃美知乃之利は備後と云、西海道にては筑紫乃三知乃久知は筑前、筑紫乃三知乃之里は筑後、比乃三知乃久知は肥前、比乃美知乃之利は肥後、止與久邇乃美知乃久知は豊前、止與久邇乃美知乃之利は豊後と云り、並和名抄に見えたり、此は吉備國に將入る道口にて、後までも播磨は山陽の道口にてぞある、さて此に爲道口と云る由は、水垣宮段に東方十二道とある處(傳廿三葉)に委云べし、